

公益財団法人 国家基本問題研究所
総合安全保障プロジェクト

中国軍事動向月報

2024年10月



JINF

Japan Institute
for National Fundamentals

目 次

1 全 般	・ ・ ・ 3
2 各軍等	・ ・ ・ 4
3 対台湾動向	・ ・ ・ 9
4 対日動向	・ ・ ・ 11
5 国境地域等での活動	・ ・ ・ 17
6 軍事交流	・ ・ ・ 19
参考文献	・ ・ ・ 20

中国軍事動向月報：2024 年 10 月

2024. 11. 7

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

1 全 般

9 月からの訓練最盛期が引き続いており、統合訓練や実射訓練等の報道が多く確認された。

10 月 14 日、台湾侵攻を主担当とする東部戦区は、台湾周辺海空域において統合演習「聯合利剣-2024B」を実施。これは 5 月に実施した頼総統就任後の「聯合利剣-2024A」に続くもので、台湾双十節に対応した政治的メッセージを含むものであった。また、「聯合利剣-2024B」実施日の前後に、日本南西諸島周辺海域において、演習参加艦艇とは別に、尖閣周辺で活動していた艦艇 2 隻及び中露共同パトロールに参加していた艦艇 4 隻が確認された。台湾有事の際の日本への対応を想定して同時期に南西諸島付近を航行した可能性も否定できない。

10 月 17 日、習近平中央軍委主席が、ロケット軍某旅団を視察。同旅団は、以前日本を射程範囲に収める準中距離弾道ミサイル（核）DF-21A を装備していた旅団であり、現在はグアムを射程に収める中距離弾道ミサイル（核・対地・対艦）DF-26 に換装されていることが確認された。対日核抑止任務は、内陸部の DF-26 または沿岸部の DF-17 の部隊に移管された可能性もある。

国境地域では、中印実効支配線地域において、2020 年 6 月以降の対峙状態から緊張緩和が図られた。10 月 23 日の習近平国家主席とモディ印首相との会談では、両首脳が国境問題解決に大きな進展があったことを評価。両国部隊は対峙地域から撤退を開始している。

一方、南シナ海においてはフィリピンに対する強硬姿勢を維持したまま、ベトナムやインドネシアに対しても一方的な取り締まりを強化している。中国は同海域において、資源の確保と共に台湾問題に影響を及ぼす日米豪等の動向に注視しており、今後も特に米国の影響排除を目指し、自国のプレゼンス強化を図っていくと思われる。

2 各軍等

(1) 全般

○ 全軍軍事理論工作会議

10月14～15日、全軍軍事理論工作会議が北京で開催。習近平中央軍事委員会主席（注：出席については未確認）が「新時代・新征途における軍事理論工作の強化、中国の特色ある現代軍事理論体系の確立」を強調し、「建軍百年奮闘目標実現し、世界一流の軍隊建設を加速するための科学技術による支援と先導」等を指示した¹。

○ 全軍合成訓練現地会議

10月20～22日、習近平中央軍委主席の承認の下、全軍合成訓練現地会議が河北省張家口で開催。中央軍事委員会・戦区・軍種・武警・学校等の指導者が参加したほか、旅団級以上の作戦部隊等がリモート参加した。中央軍委副主席の張又俠が展示課目と夜間実弾訓練を視察し、総括会議で訓示を行った。張副主席は「建軍百年奮闘目標の実現を焦点とし、ネットワーク情報システムに基づいた統合作戦能力整備を目指し、新型軍事訓練体系整備を加速し、合成訓練を発展させよ。単元ごとの集合訓練・戦術協同訓練・対抗検閲を強化し、合成訓練を推進せよ」と訓示した²。

【コメント】

「全軍合成訓練現地会議」は、2023年6月に今回と同様に張又俠中央軍委副主席の出席の下、同様の規模で開催された「全軍基礎訓練現地会議」に引き続き会議として位置づけられる。

2023年の会議では基礎訓練の方式や普及等について検討を実施し、教官の専任化・訓練単位の集約化・訓練のモジュール化・検閲の標準化等が指示され、全軍における基礎訓練に一定の方向性を与えた。

2024年の訓練重視事項は「1に基礎訓練、2に対抗訓練、3に統合訓練、4が科学技術による演練」である（国防部報道官記者会見での発言）。今回の「全軍合成訓練現地会議」で、対抗訓練や統合訓練を重視するよう指示したことは、2023年の「全軍基礎訓練現地会議」に基づく基礎訓練が一定の成果を納めつつあることを踏まえ、1の「基礎訓練」から2・3の「対抗訓練」「統合訓練」を重視する段階に能力を向上させている証左とも言える。

(2) 統合・協同訓練： 聯合利剣-2024B

10月14日、東部戦区は台湾周辺海空域において統合演習「聯合利剣-2024B」を実施³。頼總統就任後の聯合利剣-2024Aに続き、台湾双十節に対応した政治的メッセージを含むものであった。
 (『国基研チャンネル』第563回台湾危機『聯合利剣-2024B』中国軍事演習を解説 20241018 参照)

演習の概要：2024Aとの比較

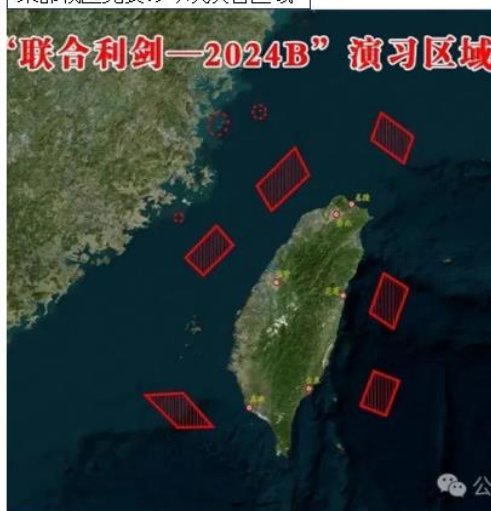
- 10/14、東部戦区は陸海空ワット軍等による統合演習「聯合利剣-2024B」を実施
- 「独立」を求める「台湾独立」分離主義勢力に対する強力な威嚇であり、国家主権と国家統一を擁護するための正当かつ必要な行動と表明

名称	聯合利剣-2024A	聯合利剣-2024B
期間	5/23～24	10/14 0500～1800
契機	5/20 頼總統就任演説	10/5、10 頼總統双十節演説
区域	台湾北部・南部・東部 金門島、馬祖島、烏丘嶼、東引島	台湾海峡、台湾北部・南部・東部 馬祖島、烏丘嶼、東引島
部隊	○東部戦区部隊 ○海警直屬第2支隊・福建海警局が 並行して演習	○東部戦区部隊 ○空母遼寧編隊 ○海警直屬第1・2支隊、福建海警局が 並行してパトロール
重視項目	○統合海空戦備パトロール ○戦場総合支配権の統合奪取 ○重要目標への模擬統合精密打撃	○海空戦備パトロール ○重要港湾・要域の封鎖 ○海上陸上目標への打撃 ○総合支配権の奪取

- 海警の参加兵力を増強
- 海上封鎖をより重点的に演練
- 移動開始～13時間で海上封鎖及び統合打撃位置に戦闘展開、高速化を追求

演習区域と展開兵力

東部戦区発表の今次演習区域



(資料源：東部戦区SNS20241014)

展開兵力



(資料源：台湾CNA20241014)

- 重要港湾へのアクセスを制する位置に設定し、港湾封鎖を重視
 ⇒台湾の生命線・外国からの支援線・政権の逃亡線を遮断とアピール
- 海軍と海警が演習区域内で連携要領を確認した可能性あり
- 台湾の領海内には設定せず、実弾使用せず、実際の衝突への発展は回避

(3) 海軍

○ 空母 2 隻による南シナ海での訓練

10 月下旬、空母「遼寧」「山東」は南シナ海において初の空母 2 コ編隊による訓練を実施した。空母遼寧は 9 月中旬～10 月にかけて黄海・東シナ海・南シナ海等の海域で訓練を実施、遠海訓練を終了し、10 月 31 日までに母港の青島に帰港した⁴。

南シナ海で訓練する空母「山東」「遼寧」編隊



(資料源：中国軍網20241031)

【コメント】

空母「遼寧」は 2023 年 2 月～2024 年 4 月まで大連船舶重工集団の造船所にて約 1 年 2 か月の整備改修を実施しており、その後初の遠海訓練となった。

整備後の性能及び部隊の練度確認と共に、南シナ海においては領有権問題を有する国に対し、空母 2 隻による威嚇を行った可能性がある。

(4) ロケット軍：習近平中央軍委主席のロケット軍旅団視察

10月17日、習中央軍委主席はロケット軍某旅団を視察、「新時代の強軍思想・軍事戦略方針を貫徹し、戦略ミサイル部隊建設と作戦運用の特有の規律を把握し、政治指導を堅持し、使命感を強化し、一心不乱に任務に励み、能力を向上させ、戦略的抑止と実戦能力を強化し、党と人民が賦与した任務を貫徹せよ」「対象に焦点を当てた新装備・新技能・新戦法の訓練を強化せよ」と訓示⁵。

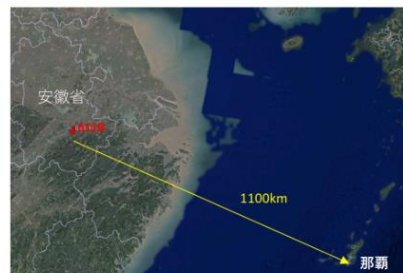
習中央軍事委主席のロケット軍視察（注：第611旅団と推定）

CCTV報道（20241019）

10月17日、習中央軍事委主席はロケット軍某旅団を視察

- 某旅団は安徽省に所在する**戦略弾道ミサイル**部隊
- 創立50年以上であり、**新装備**に更新
- 習主席は「対象に焦点を当てた新装備・新技能・新戦法の訓練強化」を訓示

旧装備（DF-21Aと推定）の展示を視察



部隊の歴史紹介パネル



1987～88、1993～96、2008～2011年の3回に渡り、全軍作戦当直任務に上番、部隊の戦備態勢構築を強化した

- 視察した旅団は**以前DF-21A**を配備し、**日本に対する核抑止**任務を保持
- 2011年以前までは交代で戦備態勢を維持したが、**今は常時即応態勢の可能性有**

駐車場に整列し視察を受けるDF-26



- DF-26の発射機を25基確認



DF-26展示部隊と記念撮影する習主席



- 形状が違う2種類のミサイルを確認
- DF-26は核・通常対地・対艦弾頭装着可能
- 同部隊は以前、準中距離核弾道ミサイルを運用していた部隊であり、1種類は核の可能性あり

- 日本を主対象にしたDF-21Aから、700kmまで到達するDF-26に換装し、印太地域に**中距離ミサイル配備を開始した米国への抑止力強化**
- 核を含む2種の弾頭を装備と提示、敵が判定できずに対応困難となるのを強要
- **対日核抑止任務は内陸部DF-26部隊または沿岸部DF-17部隊に移行した可能性**

(5) 海警総隊

○ 中露共同演習及びパトロール「太平洋パトロール-2024」

10月17日、「太平洋パトロール-2024」に参加していた海警編隊 2303・2305 が舟山に帰港。同編隊は9月13日に舟山を出港、35日間・17000海里以上・1200時間上航海した。

9月16～20日にピョートル大帝湾付近で露沿岸警備隊と共同演習、21日以降は北太平洋公海共同パトロールを実施した⁶。

ヘリを使用しパトロールする海警船



露沿岸警備隊との調整



(資料源：中国海警局20241017)

○ 中露第2回ハイレベル協議

10月21日、中国海警局と露連邦保安庁との第2回ハイレベル協議が北京で開催。

中国からは海警局局長・郁忠、露からは連邦保安庁国境局副局长と沿岸警備部門の長が参加し、今後の海上での実務協力を深化させ、遠海共同作戦能力を向上させることに合意した⁷。

【コメント】

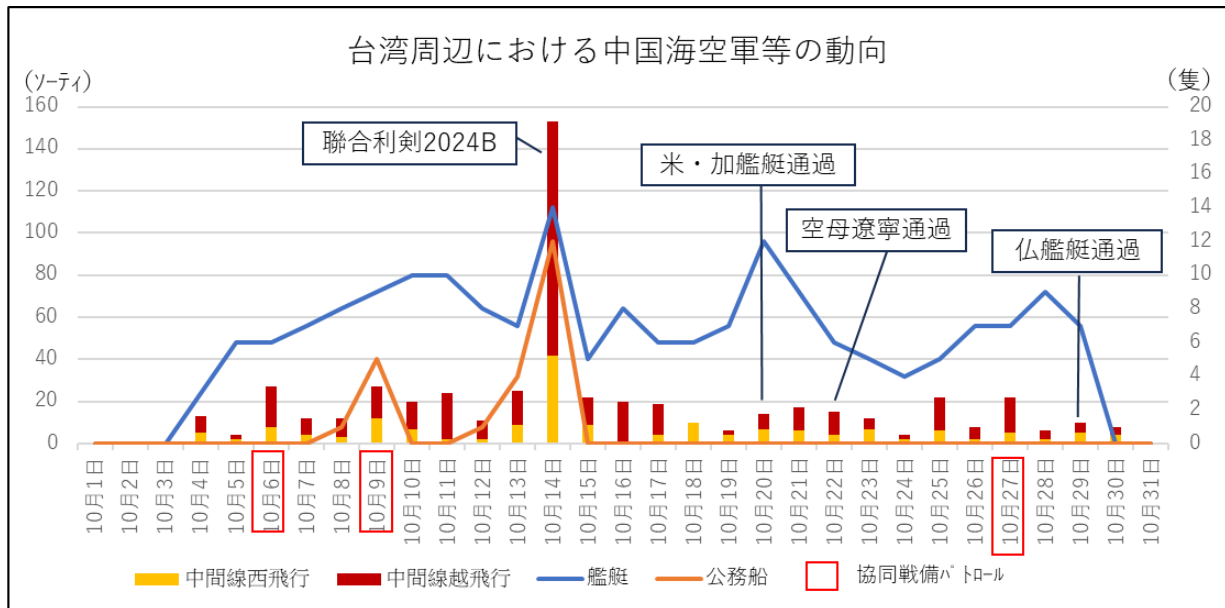
中露は海軍のみならず海警相互の共同訓練を深化させ、また中国海警船は遠海でのヘリを使用した作戦能力を強化している。

今回参加した海警船は東海海区直属第2支隊の所属であり、同支隊は尖閣を担当する部隊であるため、尖閣周辺海域でのヘリを使用した活動に繋がる可能性もあり、注目される。

3 対台湾動向

(1) 台湾周辺での軍の活動状況

○ 中華民国国防部発表による台湾周辺での中国海空軍の動向



（資料源：中華民国国防部 HP を基に作成）

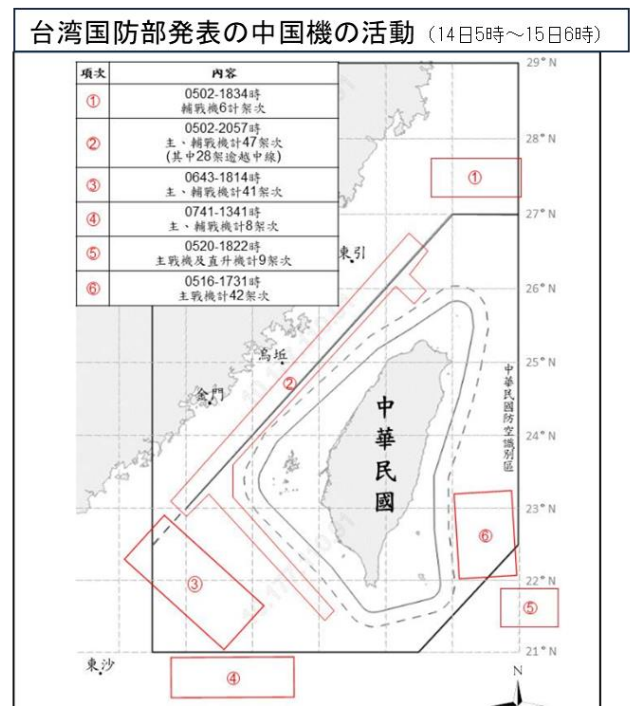
10 月は中国軍機延べソートイ 543（内、中間線超えが延べ 370）、中国艦艇延べ 191 隻、公務船延べ 23 隻が確認。1 日における軍用機最大確認数は 153 ソートイ、最大中間線超え 111 ソートイと台湾国防部の発表が確認できるようになって以降最多。海空協同戦備パトロールは 3 回であった。

【コメント】

10 月 14 日は聯合利剣-2024B に参加したアセットが多く確認された。

軍用機はこれまでで最大の飛行ソートイ数及び中間線超えソートイ数が確認され、台湾東岸空域においても太平洋上で訓練に参加していた空母「遼寧」から発艦した軍用機が活動した。

艦艇は 14 隻と 5 月 24 日の聯合利剣-2024A の 27 隻に比して少ないものの、海警船は 5 月 23 日の 7 隻から 12 隻（注：海警またはそれ以外の公務船）と増加した。聯合利剣-2024B で海上封鎖をより重視した訓練を実施したためと思われる。



（資料源：中華民国国防部20241015）

○ 外国艦艇等の台湾海峡通過

10月21日、東部戦区報道官は「20日に米駆逐艦ヒギンズ、加護衛艦バンクーバーが台湾海峡を通過し、喧伝。東部戦区は海空兵力をもって全航程を監視警戒し、法に基づき処置した」と表明⁸。

10月29日、台湾国防部は「仏艦艇1隻が28日夜～29日午前にかけて台湾海峡を南から北へ航行した」と発表した⁹。仏艦艇通過に関する中国からの表明は確認されなかった。

(2) 金門周辺海域での動向

○ 海警のパトロール

台湾海巡署によると、10月は海警船が金門では3回制限水域に進入、今年の金門・馬祖周辺での制限水域侵入は累計は49回となった。

10月28～30日、3日連続で、中国海警4隻(14512、14603、14609、14602)がそれぞれ金門周辺海域の4方向から台湾制限水域に入域、一回当たり約2時間航行し出域した。台湾海巡署は巡視艇4隻を派遣し退去させたと表明¹⁰。

これに対し中国海警局は10月30日、「10月30日、福建海警が金門周辺海域において常態化法執行パトロールを実施。10月以降、福建海警は同パトロールを継続強化し、関連海域での管理を強化している」と表明した¹¹。

海警船(右)を監視する台湾海巡署巡視船(左)



(資料源：台湾海巡署20241028)

台湾海巡署巡視船から海警船を監視



(資料源：台湾海巡署20241029)

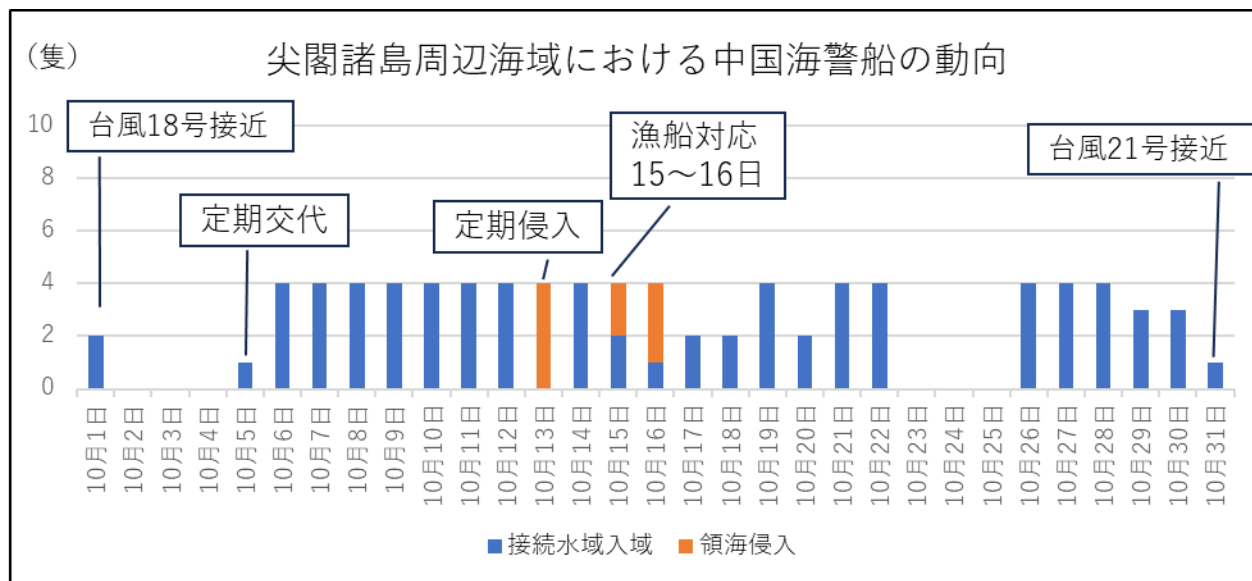
【コメント】

金門周辺海域での中国海警によるパトロールは月に複数回、4隻で4方向から進入し2時間航行、というパターンで常態化しつつあり、10月も同様の活動が確認された。

4 対日動向

(1) 尖閣諸島周辺での活動状況

○ 海上保安庁発表等による尖閣周辺における中国海警船の動向



(資料源：海上保安庁 HP、八重山日報を基に筆者が作成)

○ 日本漁船への対応

10月15～16日、操業中の日本漁船に対応した領海侵入を行った。これに関し中国海警局報道官は17日、「10月15～16日、日本漁船鶴丸が釣魚島（注：原文ママ）領海侵入したため、中国海警船は法に基づき必要な処置を採り、離脱するよう警告した。日本が直ちに当該海域での一切の違法活動を停止するよう促す」と表明した¹²。

これに対し、「鶴丸」に乗船していた石垣市議の仲間氏は「追い返された事実はない」「中国船は鶴丸に近づこうとせず、大きく距離を置いて並走していただけだった」「海警局の発表は国内向けのパフォーマンスだろう」と指摘し、以前は鶴丸が尖閣周辺で出漁した際、中国艦船はすぐ近くまで接近してきたが、最近は一定の距離を保ったままだと述べた¹³。

【コメント】

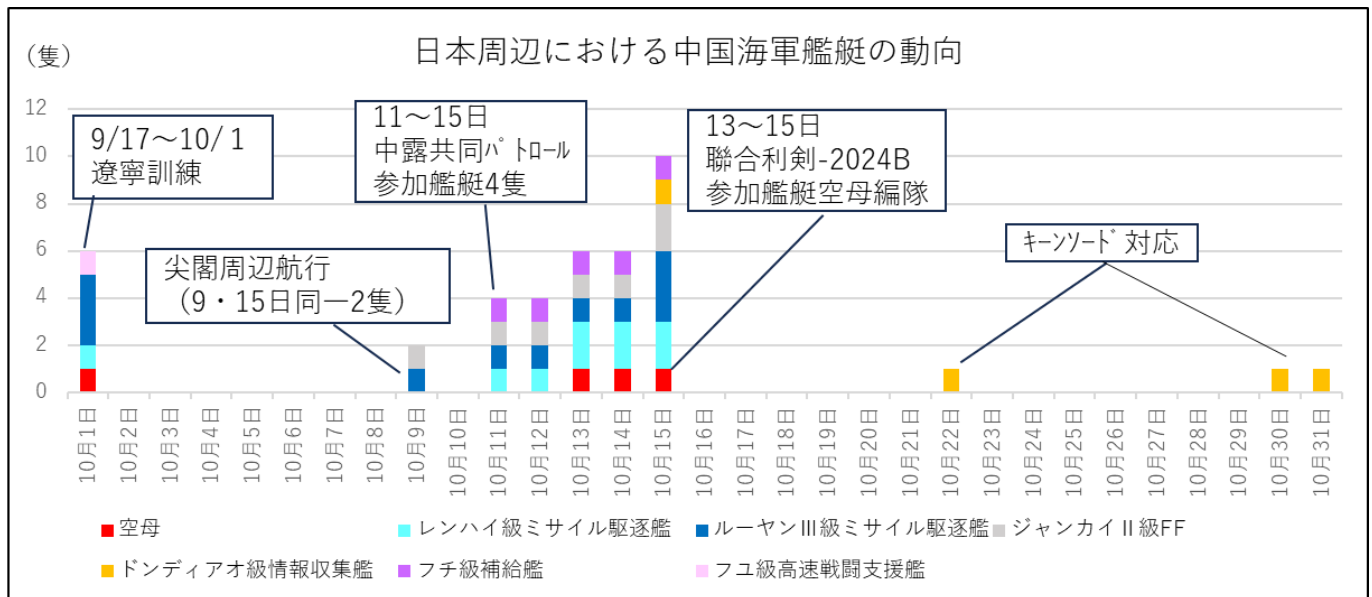
10月も砲搭載船4隻による活動を実施した。定期交代は通常1日に8隻が接続水域に入域して実施されることが多いが、今月は10月5～6日にかけて10月の編隊4隻が上番した。台風18号の影響と考えられる。

領海侵入の要領に特異な事象は報道されず、日本漁船への対応についても、報道官の表明は8月14日に鶴丸へ対応した時の表現振りと同様であり、7月10日に別の日本漁船への対応時の「違法活動を停止しなければあらゆる対抗手段を採る権利を有する」との強い表現は認められなかった。

10月23～25日は4隻共接続水域での航行は認められなかった。この間台風20号が接近したが比方向に進んだためその影響は不明。AISによれば、22日に4隻共玉環島に向けて航行した。13日の定期侵入が、14日に東海海区も参加して実施された聯合利剣-2024Bに関連しているかは不明であるが、そうと仮定とすれば、演習後の総括や運用上の調整のため玉環島に帰港した可能性も否定できない。

(2) 日本周辺での軍の活動状況

○ 防衛省統合幕僚幹部発表による日本周辺における中国海軍の動向



(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

延べ 40 隻の活動が確認され、先月の延べ 58 隻に引き続き活動が活発であった。

クズネツォフ級空母「遼寧」は 10 月 1 日まで沖ノ島島南方海域で訓練を実施した後、フィリピン東の海域を南西進し、南シナ海へ航行した。

9 日、ルーヤンIII級ミサイル駆逐艦とジャンカイII級フリゲートが魚釣島の西約 80 km の海域を南進し、与那国島と台湾との間の海域を南進した後、15 日に沖縄本島と宮古島との間の海域を北進し、東シナ海へ向けて航行した。

11 日、9 月に中露海上共同演習「北部・聯合-2024 演習」を実施後、中露共同パトロールに参加していた艦艇 4 隻が露艦艇 2 隻と共に沖の島島北東で確認された。

13 日以降、14 日に実施された聯合利剣-2024B に参加した空母編隊が確認された。

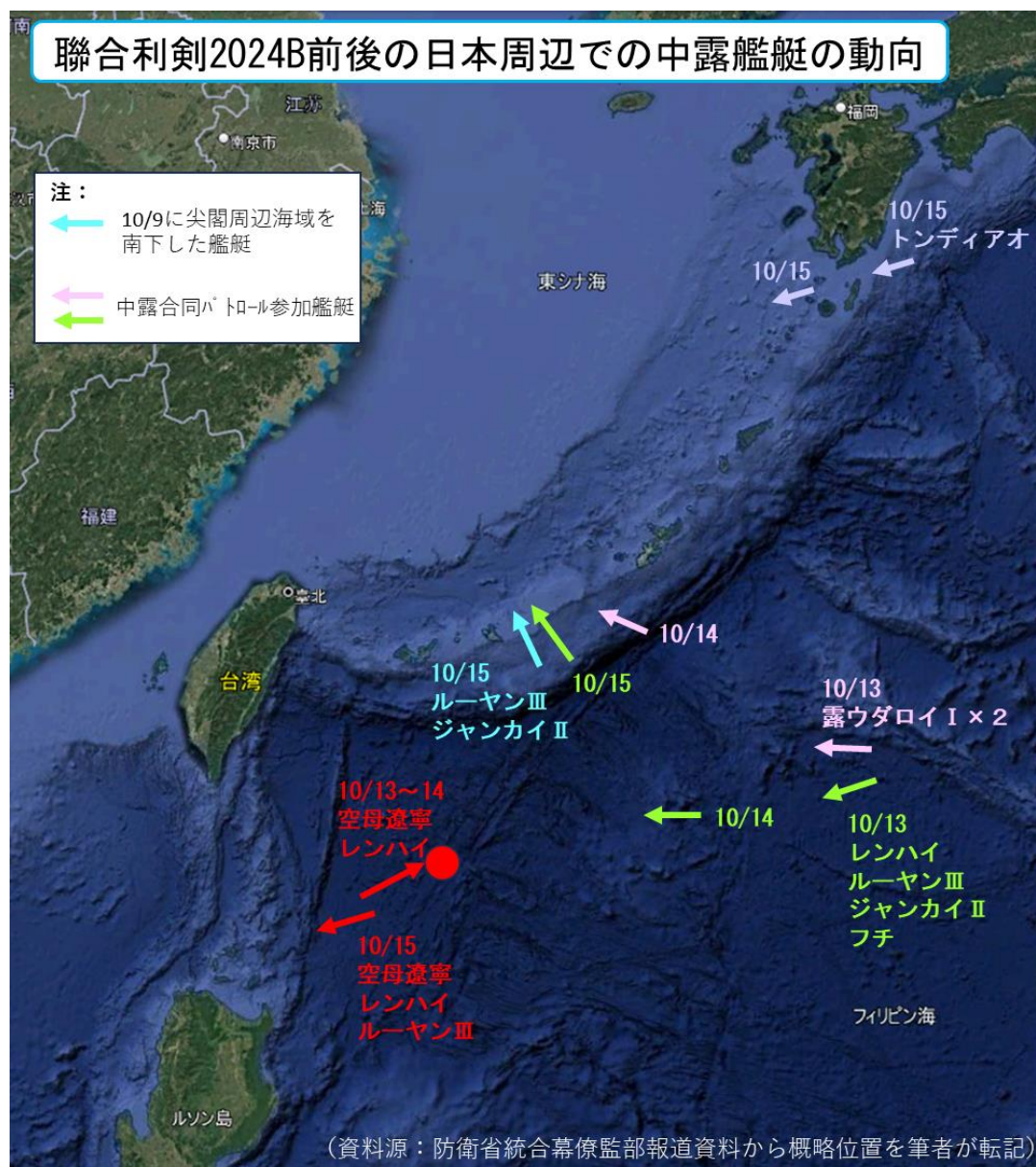
22 日以降確認された情報収集艦は 10 月 23 日～11 月 1 日に奄美大島、徳之島、沖永良部島、我が国周辺海空域等で実施された日米共同訓練キーン・ソード 25 への対応だった可能性がある。

【コメント】

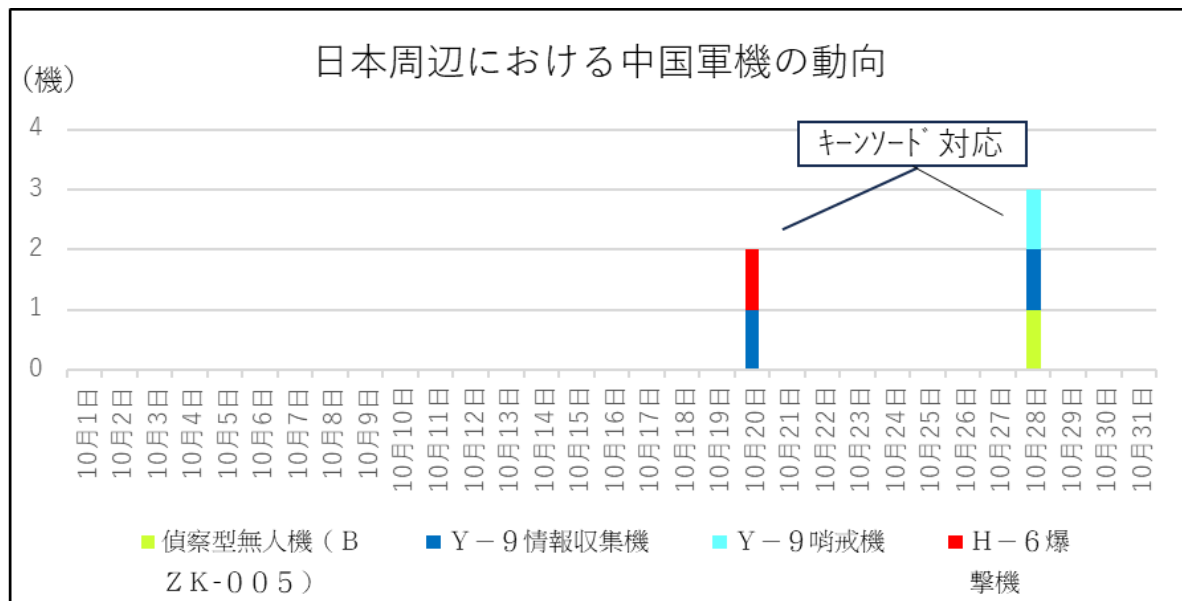
下記の図は台湾周辺で東部戦区が実施した「聯合利剣-2024B」前後の日本周辺での中露艦艇の動向を纏めたものである。

演習に参加した空母遼寧編隊の他に、同時期に南西諸島周辺で中露の艦艇が確認された。中露合同パトロールに参加していた艦艇は艦番号（104, 117, 547, 889）から北部戦区海軍、尖閣周辺海域を南下した艦艇（134, 530）は東部戦区海軍所属である。また、尖閣接続水域に入域していた海警船4隻は演習前日の13日に領海侵入を行った。

報道では「聯合利剣-2024B」参加部隊との連携は確認されないが、尖閣周辺で活動していた艦艇2隻は演習を主催した東部戦区隷下であり、連携して監視等を行った可能性もある。また、北部戦区海軍は台湾有事の際、台湾侵攻任務を有する東部戦区海軍の支援とは別に周辺国対応の任務も有していると思われ、日本への対応を想定して同時期に南西諸島付近を航行した可能性も否定できない。更には露との連携をアピールして日本を牽制した可能性もある。



○ 防衛省統合幕僚幹部発表による日本周辺における中国軍機の動向

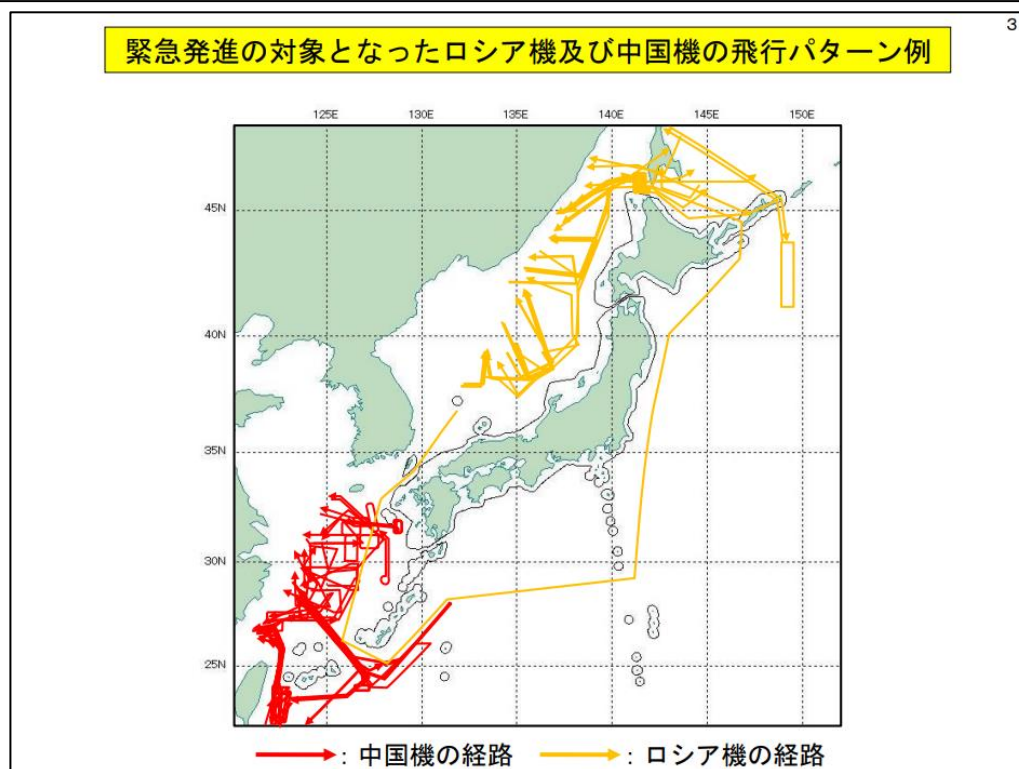
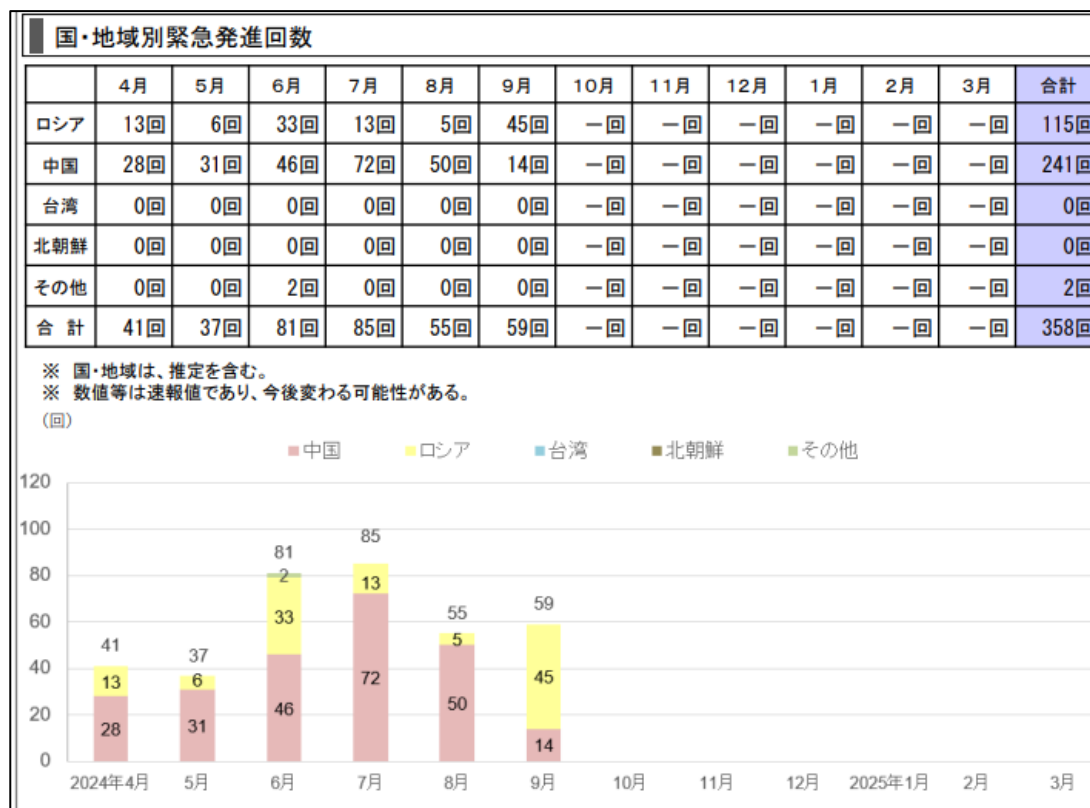


(資料源：防衛省統合幕僚監部 HP を基に筆者が作成)

20日以降確認された情報収集機等は10月23日～11月1日に奄美大島、徳之島、沖永良部島、我が国周辺海空域等で実施された日米共同訓練キーン・ソード25への対応だった可能性がある。

○ 日本周辺における 2024 年度上半期の中国軍機の動向

10 月 17 日に統合幕僚監部が公表した 2024 年度上半期までの緊急発進状況については以下の通り。中国機に対する緊急発進回数は 241 回であり、昨年度同時期における回数（304 回）と比べ約 60 回減少しているものの、年度全体の緊急発進回数が高い水準で推移し始めた 2013 年度以降の実績から見れば平均的な水準にある¹⁴。



（３）対日認知戦（解放軍報、国防部の発表からの抜粋のみ）

○ 韓国が自衛隊の入域制限を緩和¹⁵ 解放軍報 20241017

韓国国防部は、自衛隊が在韓米軍基地を一時的に使用する場合の国会の同意は不要とする見解を明らかにしたが、これは米国への妥協である。米国は近年「アジア版 NATO」創設のためアジア太平洋地域の同盟国に働きかけており、地域の陣営対立を煽る危険性がある。

○ 米日印豪が「マラバール」共同演習¹⁶ 解放軍報 20241017

マラバールは米印の演習であったが、近年日豪が参加し、米国の推進する印太平洋戦略の 1 つとなっている。米国がアジア太平洋地域で徒党を組むことは地域の安定にマイナスである。

○ 空母「かが」（注：原文ママ）が米国で艦載機試験¹⁷ 解放軍報 20241024

海上自衛隊「かが」軽空母が米国で艦載機の試験を実施したことは、日米軍事協力の強化であり、日本が平和憲法を逸脱することを示している。

○ 日本の空母保有への更なる一步に警戒 海軍研究院¹⁸ 解放軍報 20241030

「かが」への米 F-35B 着艦は日本の空母保有の目標への更なる一步であり、「かが」と「いずも」の改修が終われば日本は空母 2 隻を保有することになる。日本は己の利益のために米陣営の大国競争に迎合しているが、地域の平和と安定を損なうだけでなく日本自身の安全と発展にも不利。

○ 日米が「利剣」統合演習を実施¹⁹ 解放軍報 20241030

日米統合演習キーンソード（注：原文「利剣」）が 10 月 23 日に開始。日本は地域の安全保障環境を理由に軍事力を強化しており、米国は日本の力を借りてインド太平洋戦略を推進しようとしている。

○ キーンソードへの質問に対する国防部報道官発言²⁰ 国防部定例記者会見 20241031

日米の軍事演習は台湾問題を取り上げるべきではない。我々は日米が台湾問題に介入することを止め、軍事安全分野での言動を慎むよう要求する。

【コメント】

10 月も日米同盟強化に強く反発した。また、「アジア版 NATO」や海自の「空母保有」にも触れており、日本の世論動向に注視し、認知戦を展開させた。

（４）第 17 回日中高級事務レベル海洋協議

10 月 23 日、第 17 回日中高級事務レベル海洋協議が東京で開催。日本から外務省、内閣官房、水産庁、資源エネルギー庁、海上保安庁、環境省、国土交通省及び防衛省、中国から、外交部、中央外事工作委員会弁公室、国防部、自然資源部、生態環境部、交通運輸部、農業農村部、国家エネルギー局及び中国海警局が参加。日中防衛当局間のホットラインや、ハイレベルを含む各レベル・各分野での防衛当局間における対話と交流等を通じた意思疎通を引き続き推進していくことで一致した²¹。

5 国境地域等での活動

(1) 対フィリピン（以下、比）

10月8日、中国海警局報道官は「8日、中国政府の許可を得ず、比船3001・3002号がスカボロー礁周辺海域に侵入。中国海警船は全航程を追跡・監視し、法に基づき取締りを実施」と表明²²。

一方、比海軍報道官は8日、「8日に中国海警船が比漁船に補給中の漁業水産資源局船舶3001に放水を実施したという報道を懸念している。比海軍は比沿岸警備隊と漁業水産資源局への支援とパトロールを継続する。9/30～10/6までに南シナ海で確認された中国船舶は190隻（セカンドトーマス・サビナ・スカボロー礁に展開する海軍艦艇・海警船28隻含む）である」と表明²³。

(2) 対インド（以下、印）

10月21日、印外務省は記者会見において、「過去数週間、インドと中国の外交・軍事部門での協議の結果、印中国境地域の実効支配線に沿った巡回体制について合意に達し、これが撤退、最終的には2020年に発生した問題の解決につながっている」と表明した²⁴。

10月23日、習近平国家主席はBRICS首脳会議の際、モディ印首相と会談。中国外交部によれば、両首脳は国境問題解決に大きな進展があったことを評価し、国境問題特別代表会合メカニズムを機能させ、同地域の平和と安定を図り、公平合理的な解決を目指すことで合意²⁵。

印政府関係者が中印部隊が対峙地域から撤退を開始したと表明したとの報道に関し、10月25日、外交部報道官は「中印が合意した国境問題の解決案に基づき両軍の第1線部隊が行動しており、順調に進展している」²⁶と述べ、撤退の事実を認めた。また10月31日、中国国防部報道官も「国境問題の解決案に基づき、双方の第一線部隊は整齊と行動している」²⁷と発言した。

10/31、ヒンドゥー教のお祝いディーワーリーと ハロウィンを機に国境地域でお菓子を交換する中印兵士



（資料源：星島網20241101）

(3) 対インドネシア（以下、印尼）

10月23日、印尼海事安全局は「21日、リアウ諸島付近の北ナツナ海印尼 EEZ に中国海警船 5402 が進入した。海警船は印尼国営石油会社 Pertamina の調査活動を妨害したため、海事局が無線で呼びかけたところ、当該地域は中国の管轄地域であると主張したため、海事局と海軍が追尾・撤退させた。」と公表²⁸。また、印尼海事安全局は26日にも「海警 5402 が21、25日に再び印尼管轄区域に侵入」と表明した²⁹。

(4) 対ベトナム（以下、越）

31日、越外務省報道官は定例記者会見で、西沙諸島で中国がベトナムの漁業従事者と漁船を拘束したとされる問題で抗議したと表明。中国に対し「不法に拘束された漁業従事者と漁船を直ちに解放する」よう求めたと述べたが、拘束された人数や時期は明らかにしなかった³⁰。

【コメント】

中印国境の実効支配線地域では2020年6月に、両軍にそれぞれ死傷者がでる衝突が生起、それ以降緊張が継続していたが、今回の合意で対峙地域から両軍がそれぞれ撤退し、パトロール等について合意した。国境問題は未解決であるが、両国首脳が評価していることから当分の間、緊張緩和状態は維持されるであろう。

一方、南シナ海においては比に対する強硬姿勢を維持したまま、越や印尼に対しても一方的な取り締まりを強化している。中国は同海域において、資源の確保と共に台湾問題に影響を及ぼす日米豪等の動向に注視しており、今後も特に米国の影響排除を目指し、自国のプレゼンス強化を図っていくと思われる。

6 軍事交流

(1) ロシア

○ 露国防相の訪中

10月14日、訪中したペロウソフ露国防相は董軍国防相と北京で会談。

中国国防省によると、董国防相は、中露関係は歴史上最高の水準に達しており、両軍は戦略的な協力を深め、両国の共通利益を断固として守り、世界の戦略的安定をともに擁護するべき、と発言。ペロウソフ国防相は、両軍の密接な協力を継続し、そのレベルを上げて、常に新たな段階へ推し進めたい、と述べた³¹。

また15日には張又俠中央軍委副主席とも会談し、2025年のソ連祖国防衛戦争と中国人民抗日戦争勝利80周年を契機とした協力強化等について話し合った³²。

○ 中露海軍共同演習部隊帰港

10月17日、「北部聯合-2024」演習に参加していた中露艦艇が青島港に入港。露ウダロイⅠ級艦駆逐艦2隻は青島にて3日間の友好訪問を実施。

露2隻は、9月9日、中国編隊（レンハイ級ミサイル駆逐艦、ルーヤンⅢ級ミサイル駆逐艦、ジャンカイⅡ級フリーゲート、フチ級補給艦）と日本海にて集結、9月11～27日まで「北部聯合-2024」に参加し、その後太平洋にて第5回共同パトロールを実施した³³。

(2) その他

○ 中タイ陸軍合同演習「突撃-2024」

10月15～25日、雲南省昆明で中タイ陸軍合同演習「突撃-2024」を実施。「突撃」シリーズとしては7回目。共同対テロ訓練をテーマに無人機との協同やリペリング、掃討等の科目を訓練³⁴。最終日には実弾演習を実施し、共同作戦能力を向上させた³⁵。

○ 中豪国防総省工作会議

10月17日、中豪は第9回国防相工作会議を北京で開催。中国中央軍事委員会国際軍事協力弁公室幹部と豪国防総省第一次官補が参加し、海上航空安全や実務協力推進等について会談した³⁶。

○ 中央軍委副主席張又俠のベトナム（以下、越）訪問

10月24～26日、中央軍委副主席張又俠は越を訪問。越共産党中央総書記、国家主席、首相とそれぞれ会見した。また越国防大臣と会談し、防衛協力強化に関する合意文書の署名に立ち会った³⁷。

【コメント】

露とは協力関係の強化を継続、特に2025年のソ連祖国防衛戦争と中国人民抗日戦争勝利80周年を契機とした協力強化等について話し合っていることから、来年は露とも協力し日本への贖罪意識を植え付けるための認知戦を大々的に実施する可能性がある。

一方、今月は日本とも日中高級事務レベル海洋協議を開催し、南シナ海領有権問題で対立している越やAUKUS等に反発している豪とも対話を実施し、事態のエスカレーション防止には努めている。

【参考文献】

- 1 中国軍網 20241015
http://www.81.cn/yw_208727/16345757.html
- 2 中国軍網 20241022
http://www.81.cn/yw_208727/16346823.html
- 3 中国軍網 20241014
http://www.81.cn/szb_223187/szbqxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-10-14&paperNumber=01&articleid=941175
- 4 新華社 20241031
<http://www.news.cn/20241031/8618bb53b4e0409399808d59af7e692b/c.html>
- 5 中国国防部 20241019
http://www.mod.gov.cn/gfbw/sy/tt_214026/16346321.html
- 6 中国海警局 20241017
https://www.ccg.gov.cn/gjhz/202410/t20241017_2520.html
- 7 中国海警局 20241024
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202410/t20241024_2522.html
- 8 中国軍網 20241021
http://www.81.cn/yw_208727/16346489.html
- 9 中華民國国防部 20241029
<https://www.mnd.gov.tw/Publish.aspx?p=83632&title=%e5%9c%8b%e9%98%b2%e6%b6%88%e6%81%af&SelectStyle=%e6%96%b0%e8%81%9e%e7%a8%bf>
- 10 台湾海巡署 20241030
<https://www.cga.gov.tw/GipOpen/wSite/ct?xItem=162766&ctNode=650&mp=999>
- 11 中国海警局 20241030
https://www.ccg.gov.cn/hjyw/202410/t20241030_2527.html
- 12 中国海警局 20241017
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202410/t20241017_2513.html
- 13 八重山日報 20241025
<https://yaeyama-nippo.co.jp/archives/24243>
- 14 統合幕僚監部 20241017
https://www.mod.go.jp/js/pdf/2024/p20241017_02.pdf
- 15・16 解放軍報 20241017
http://www.81.cn/szb_223187/szbqxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-10-17&paperNumber=11&articleid=941370
- 17 解放軍報 20241024
<https://rmt-static-publish.81.cn/file/20241024/bbf3a044767c87992b2c1f948a245b10.pdf>

- 18 解放軍報 20241030
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-10-31&paperNumber=11&articleid=942421
- 19 解放軍報 20241030
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-10-31&paperNumber=11&articleid=942423
- 20 中国国防部 20241031
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16348697.html>
- 21 外務省 20241023
https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/pressit_000001_01303.html
- 22 中国海警局 20241008
https://www.ccg.gov.cn/wqzf/202410/t20241008_2491.html
- 23 Philippine News Agency
<https://www.pna.gov.ph/articles/1235003>
- 24 印外務省 20241021
<https://www.mea.gov.in/media-briefings.htm?dtl/38441/transcript+of+special+briefing+by+foreign+secretary+on+prime+ministers+visit+to+russia+october+21+2024>
- 25 中国外交部 20241024
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16347123.html>
- 26 中国外交部 20241025
https://www.mfa.gov.cn/web/fyrbt_673021/202410/t20241025_11516231.shtml
- 27 中国国防部 20241031
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16348697.html>
- 28 中央通訊社 20241023
<https://www.cna.com.tw/news/aopl/202410230345.aspx>
- 29 中時新聞網 20241028
<https://www.chinatimes.com/realtimenews/20241028001492-260409?chdtv>
- 30 ロイター 20241101
<https://jp.reuters.com/world/china/PMDDHL63DJOWTNDVENSOSOJBBI-2024-11-01/>
- 31 中国軍網 20241015
http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-10-15&paperNumber=01&articleid=941237
- 32 中国国防部 20241015
<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16345451.html>
- 33 環球網 20241017
<https://mil.huanqiu.com/article/4JsGy1jBai>
- 34 中国軍視網 20241015

https://m.weibo.cn/u/5461853682?refer_flag=1005050010_&jumpfrom=weibocom#&video

35 中国軍網 20241026

http://www.81.cn/szb_223187/szbxq/index.html?paperName=jfjb&paperDate=2024-10-26&paperNumber=04&articleid=942002

36 中国国防部 20241017

<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16346087.html>

37 中国国防部 20241026

<http://www.mod.gov.cn/gfbw/qwfb/16347660.html>

中国軍事動向月報 2024年10月

2024年11月7日発行

公益財団法人国家基本問題研究所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-6-1
平河町ビル5階

本書の無断転載、複写、複製を禁じます。